次の一手　～激動の中で　兵庫の企業～

遊びから学び　ええもん作り　社員が挑戦。

〈データ〉1964年、広畑産業として姫路市で創業。66年、ヒロハタとして株式会社化。81年に兵庫県福崎町に本社を移し、82年にエーモン工業と改称。2023年3月期の売上高は46億8千万円。従業員130人（24年4月時点）。川岸浩二社長は姫路市出身、福崎高卒。

車いじりに欠かせないカスタム（改造）パーツやメンテナンス用品を製造販売する。「自分たちが欲しい」「あったら助かる」というものを生み出し続け、総アイテム数は約1400点に上る。自社サイトに加え、ホームセンターや自動車用品店など全国7千店舗で取り扱いがある。

社名の通り、日々社員が「ええもん（いいもの）」を考えている。車離れが広く言われる中、業績は右肩上がり。「車好きの数は減っているが、いかに好きな人に深く、寄り添った提案をしていけるかどうか」と川岸浩二社長(60)は話す。

高校卒業後に入社した。創業者は、社員の挑戦を認めてくれる人だった。雑貨や家具など車以外の分野に事業を拡大させ、39歳の時、ホームケア用品事業の分社を実現させた。

2020年スタートのアウトドア関連ブランド「OGC」のアイテム展示や開発キャンプで使う器具を保管する「OGC BASE」

そして2017年に社長に就いた。「遊びから学ぶ」がスローガンだ。堀清人専務と二人三脚で、アイデアの源泉となる「遊び場」の提供に力を注いだ。18年にできた開発基地「amon　BASE（エーモン・ベース）」。DIYに必要な工具やリフト、洗車道具などがそろい、車やバイクも貸し出す。就業後や休日に、社員なら誰でも自由に使える。

20年に立ち上げたアウトドア関連のブランド「OGC（オージーシー）」は、遊びが事業になった一例だ。会社が購入したキャンプ用品を使い、社員は「開発キャンプ」を毎月（現在は隔月）テーマを設定して実施。実体験から本当に使えると思ったものを次々と商品化した。

社内イベントも月2回の頻度で開く。キャンプに旅行、バレーボール大会、サーキット場でのカートレース…。「遊び」は多岐にわたる。社員の「発想の引き出し」を多くするため、ほぼ全ての費用を会社が負担する。福利厚生も充実させ、社員ファーストの環境を整えてきた。

今年創業60周年を迎え、4月に社名を「エーモン工業」から「エーモン」に変更した。「主力の車用品を頑張りつつ、ものづくりにとどまらないチャレンジをすることに大きな意味がある」と考えるからだ。

最近は、社員の変化を実感する。積極性が出てきて、20代の若手2人から新規事業の提案があった。「（この流れが）今後一気に花開いて、いろいろな人が手を挙げてくれるのではないか」。社員の新たな挑戦に期待を寄せる。（谷口夏乃）

社長就任以来、社員が明るく楽しく働けることを第一に考えてきた川岸浩二社長（右端）。社員らとの会話では笑いが絶えない＝いずれも兵庫県福崎町南田原

◇原則、毎週木曜に掲載します。